

企業短期経済観測調査（道北*地域分）
（調査対象企業：道北*48社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
回答社数構成比 %ポイント

（判断D. I. ）

（ ）内は前回調査時予測

	2013/12月	2014/3月	6月	9月	12月	2015/3月	2015/6月までの予測
業況判断						(0)	
< 良 - 悪 >	21	17	5	7	4	▲ 4	▲10
うち製造業	10	10	0	10	18	(9) 27	36
非製造業	24	18	6	6	0	(▲ 3) ▲14	▲24
国内での製商品・サービス需給						(▲25)	
< 需要超過 - 供給超過 >	2	▲ 9	▲14	2	▲13	▲13	▲ 9
製商品在庫水準						(-)	
< 過大 - 不足 >	▲ 3	▲ 3	0	6	0	▲ 6	-
生産・営業用設備						(▲11)	
< 過剰 - 不足 >	▲ 7	▲ 3	▲ 7	▲12	0	▲ 5	▲ 7
雇用人員						(▲21)	
< 過剰 - 不足 >	▲38	▲21	▲19	▲21	▲23	▲15	▲25
資金繰り						(-)	
< 楽である - 苦しい >	17	5	▲ 4	0	0	▲ 2	-
金融機関の貸出態度						(-)	
< 緩い - 厳しい >	17	20	25	20	25	24	-
借入金利水準						(▲13)	
< 上昇 - 低下 >	▲ 7	▲ 7	▲ 3	▲10	▲11	▲11	4
販売価格						(8)	
< 上昇 - 下落 >	▲ 7	0	5	7	11	9	9
仕入価格						(54)	
< 上昇 - 下落 >	37	38	38	42	40	40	40

（注）2014年9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014年12月以降は見直し後の新ベース。

「製商品在庫水準判断」および「資金繰り判断」、「金融機関の貸出態度判断」の「2015/6月までの予測」は調査対象外。

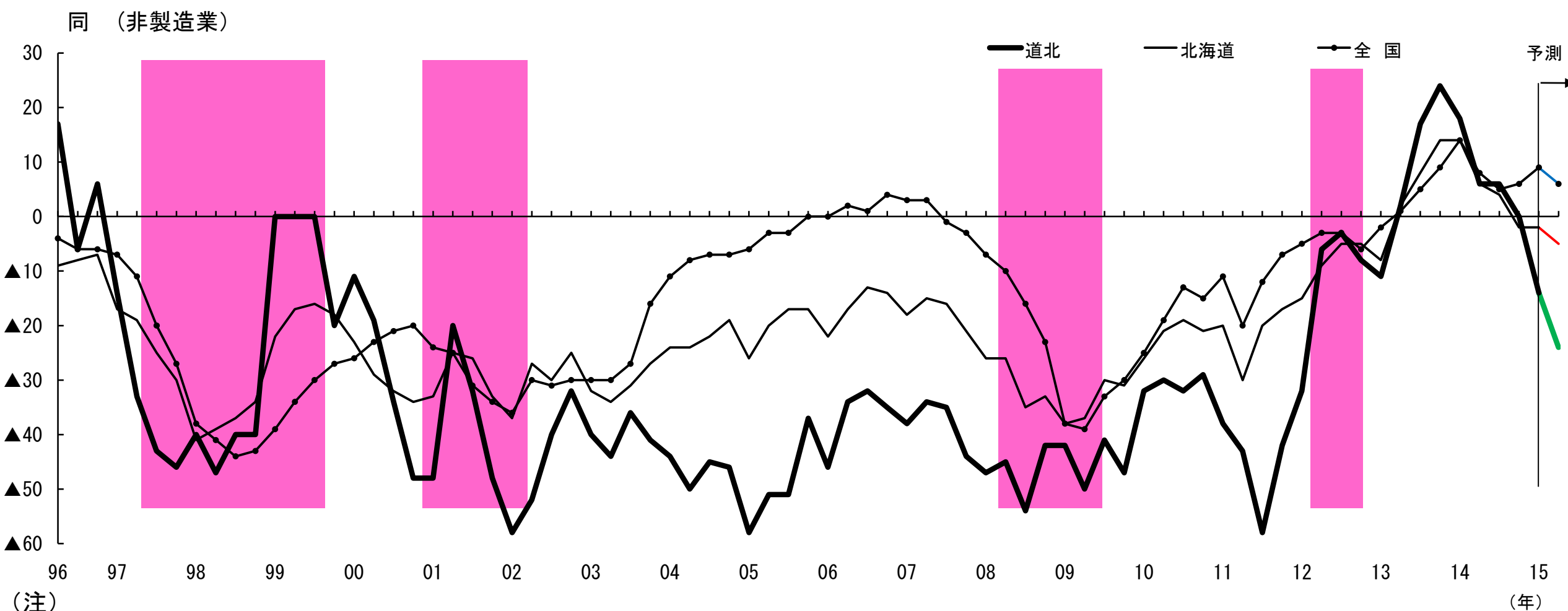
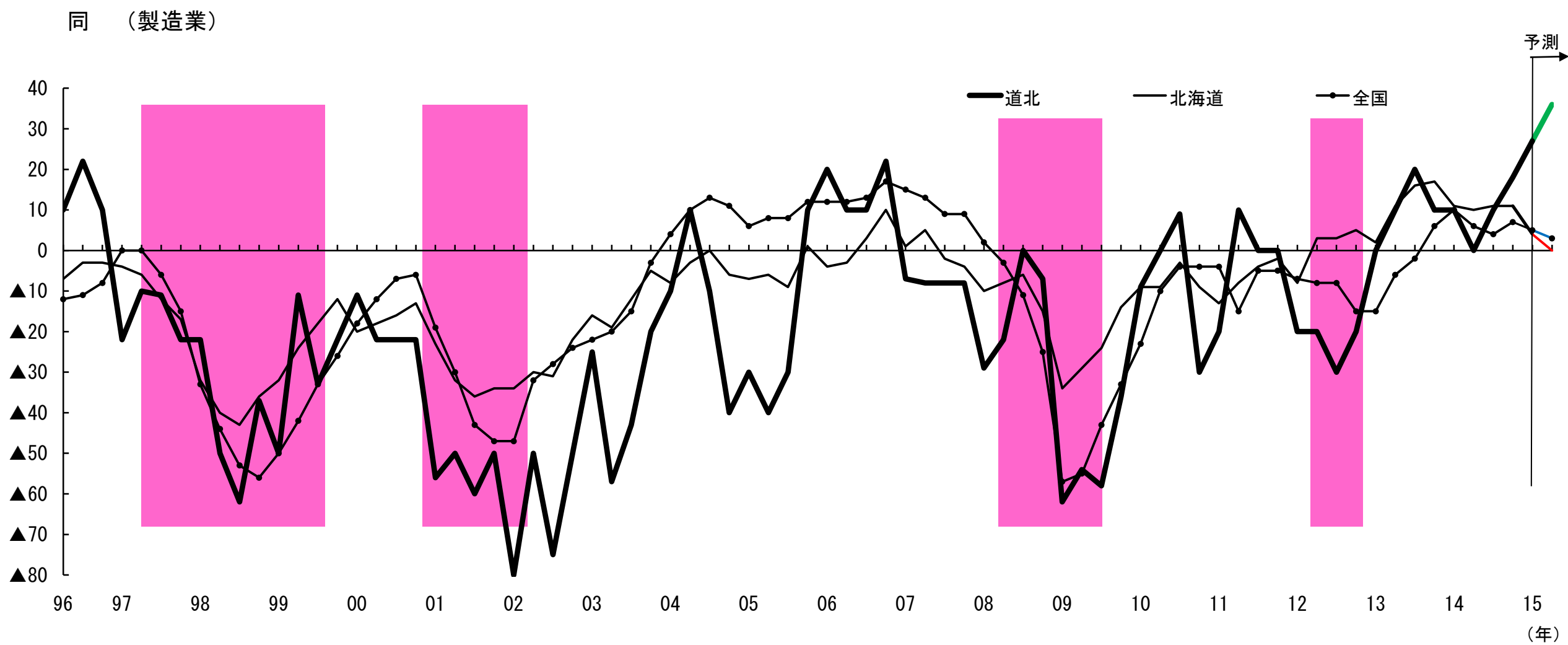
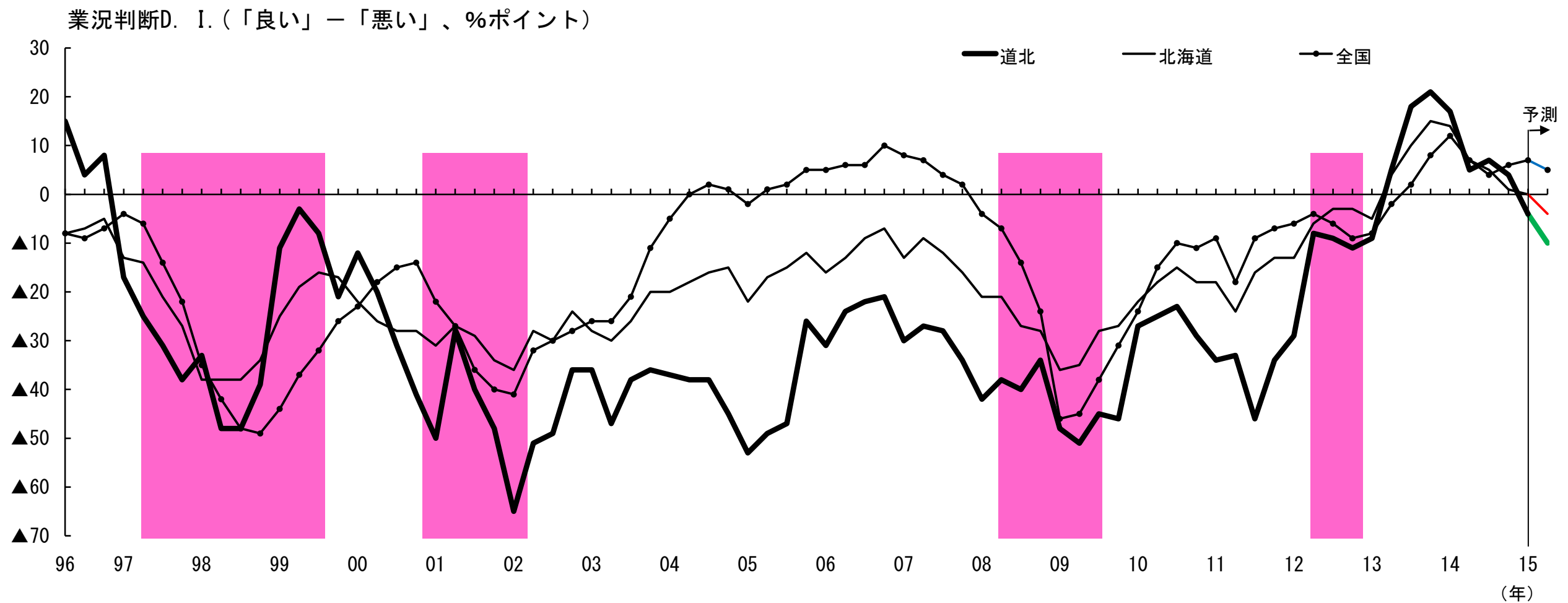
全産業、前年度比%、
< >内は前回調査比修正率%

（事業計画）

	2013年度実績	2014年度実績見込			2015年度計画		
			上期	下期		上期	下期
売上高	+16.5	-4.7 < +1.3 >	-2.4 < +0.7 >	-6.6 < +1.9 >	+1.5	+3.8	-0.6
経常利益	2.3倍	-51.7 < -22.0 >	-46.8 < -6.7 >	-56.2 < -33.9 >	+41.6	+60.9	+20.2
当期純利益	5.9倍	-51.8 < -28.2 >	-47.4 < -4.8 >	-57.0 < -46.8 >	+58.6	+79.1	+29.5
設備投資額	+71.7	+94.2 < -4.2 >	-11.5 < -0.3 >	4.2倍 < -5.9 >	-72.0	-64.4	-75.4

（注）2013年度実績は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014年度実績見込、2015年度計画は見直し後の新ベース。

2015年3月短観・調査結果



(注)
道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
2014/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014/12月以降は見直し後の新ベース。
シャドーは景気後退期（内閣府調べ）

道北地域の企業短期経済観測調査結果（2015 年 3 月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 48 社（製造業 11 社、非製造業 37 社）
- 回答率 100%（有効回答社数 48 社）
- 回答期間：2015 年 2 月 25 日～3 月 31 日

1. 業況判断 DI

- 3 月の業況判断 DI（全産業ベース）は▲4 と、前回 12 月調査に比べて悪化し（前回+4、前回比▲8 ポイント）、13/3 月調査（▲9）以来 2 年振りのマイナス（「悪い」と回答した企業の割合が多い）となった。
 - 製造業の業況判断 DI は+27 と、前回調査に比べ改善した（前回+18、前回比+9 ポイント）。
…… 受注が好調で生産が増加している「電気機械」の改善が主因。
 - 非製造業の業況判断 DI は▲14 と、前回調査に比べ悪化した（前回±0、前回比▲14 ポイント）。非製造業のマイナス（「悪い」超）は 13/3 月調査（▲11）以来。
…… 個人消費が足踏み状態の中で、「卸・小売業」のマイナスが続いているほか、「建設業」も手持工事量の減少からマイナスに転じたこと等が背景。
- 先行きの業況判断 DI（全産業ベース・6 月までの予測）についても、引続き「悪い」と見込む企業の割合が多い（▲4⇒▲10）。
 - 製造業の業況判断 DI は、さらに改善が見込まれている（+27⇒+36）。
 - 非製造業の業況判断 DI は、マイナス幅が拡大する見通し（▲14⇒▲24）。
…… 「卸・小売業」で現状比横這いとみている先が多い（「悪い」超が続く）うえ、「建設業」で 2015 年度の公共工事の減少予想から業況悪化を見込む先が増えることが背景。

2. 各種判断 DI

- 製商品・サービスの需給については、供給が需要を上回っていると判断する企業（の割合）は前回と変わらないが（「製商品・サービス需給判断 DI」〈需要超－供給超〉：▲13⇒▲13）、在庫の過剰感はなくなっている（「製商品在庫水準判断 DI」〈過大－不足〉：±0⇒▲6）。設備や人員については、

引続き不足と判断する企業(の割合)が多い(「生産・営業用設備判断 DI」〈過剰－不足〉: $\pm 0 \Rightarrow \blacktriangle 5$ 、「雇用人員判断 DI」〈過剰－不足〉: $\blacktriangle 23 \Rightarrow \blacktriangle 15$)。こうした設備や人手の不足感は、先行きにかけても続く見通し。

- 価格動向については、仕入価格の上昇が続く(「仕入価格判断 DI」〈上昇－下落〉: $+40 \Rightarrow +40$) 中で、販売価格も引上げの動きが続いている(「販売価格判断 DI」〈上昇－下落〉: $+11 \Rightarrow +9$)。先行きも、仕入価格の上昇見通しが続く中で、販売価格も引上げを見込む先が多い。

—— 販売価格は、14/6 月調査で上昇超に転じた後、4 回連続で上昇超となっている。

- この間、企業を取り巻く金融環境についてみると、金融機関の貸出態度は緩く、借入金利水準も低下している状況が続いている(「金融機関の貸出態度判断 DI」〈緩い－厳しい〉: $+25 \Rightarrow +24$ 、「借入金利水準判断 DI」〈上昇－低下〉: $\blacktriangle 11 \Rightarrow \blacktriangle 11$) が、資金繰りは僅かに窮屈化している(「資金繰り判断 DI」〈楽である－苦しい〉: $\pm 0 \Rightarrow \blacktriangle 2$)。

3. 事業計画

- 2014 年度の事業計画については、2013 年度の大幅な増収・増益の後、減収・減益の見通しとなっている。

—— 売上高は、前回調査比若干上方修正され、小幅の減収となっている(2013 年度 $+16.5\% \Rightarrow$ 2014 年度 $\blacktriangle 4.7\%$)。

—— 経常利益、当期純利益は、仕入価格や人件費等コストの上昇を背景として、前回比下方修正となり、前年比半減となっている(経常利益同 2.3 倍 $\Rightarrow \blacktriangle 51.7\%$ 、当期純利益同 5.9 倍 $\Rightarrow \blacktriangle 51.8\%$)。

- 2015 年度の事業計画については、増収・増益の見通しとなっており、特に収益に関しては、販売価格引上げ等収益環境の好転に期待する中で、かなりの改善を見込む計画となっている(売上高 $+1.5\%$ 、経常利益 $+41.6\%$ 、当期純利益 $+58.6\%$)。

—— 最近 5 年間でみると、2015 年度の売上高は最も高い水準となっているほか、経常利益、当期純利益は高水準の 2013 年度に次ぐ水準となっている。

以 上